

報 告

第55回粘土科学討論会（鹿児島大会）報告

河野元治

鹿児島大学大学院理工学研究科

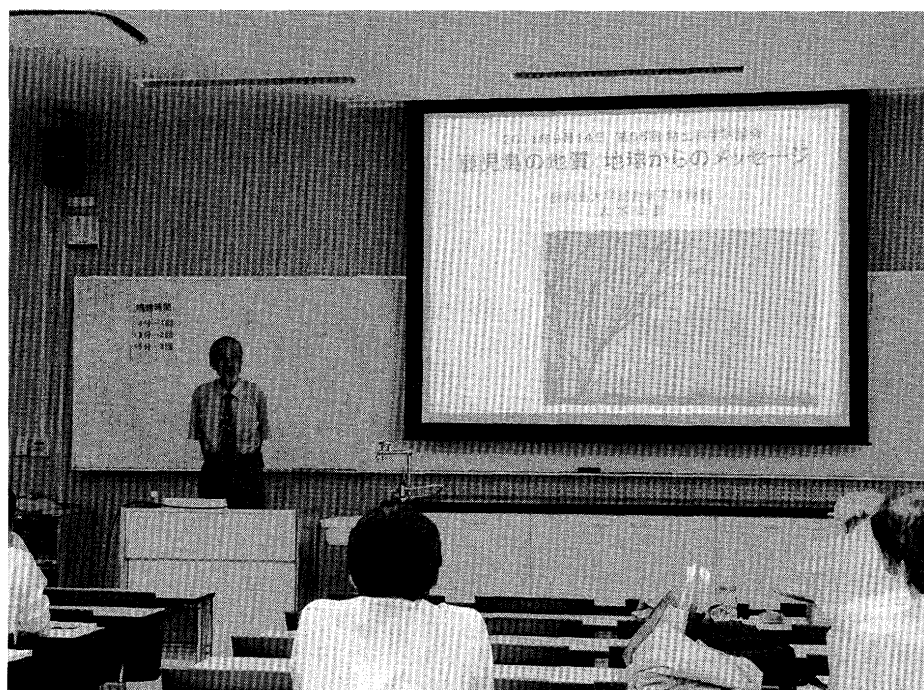
第55回粘土科学討論会(鹿児島大会)は、平成23年9月14日から16日の3日間、鹿児島大学郡元キャンパス共通教育棟3号館を会場として開催されました。鹿児島大学では平成2年に第34回粘土科学討論会を開催していますので、2回目の開催となります。会期中は、桜島からの大量降灰に見舞われましたが、討論会はプログラムどおりに順調に進められ、大きなトラブルもなく終了することができました。今回の討論会では、口頭発表64件(内、特別講演1件、シンポジウム講演5件)、ポスター発表66件、合計130件の発表が行われました。参加者数は185名で、内訳は正会員109名(内、共催学会会員1名)、学生会員48名(内、共催学会学生会員8名)、非会員21名、招待7名でした。発表件数は過去最多で、参加者数もこれまでで最も多い人数になりました。

討論会1日目は、8時から受付を始め、9時から2会場に分かれて口頭発表が行われました。当日は、最近では珍しい大量降灰に見舞われましたが、早朝からたくさんの方々にご参加いただき、活発な討論がなされました。午後は13時から特別講演、14時からシンポジウムが開催されました。特別講演では、「鹿児島の地質：地球からのメッセージ」という題目で、鹿児島大学総合研究

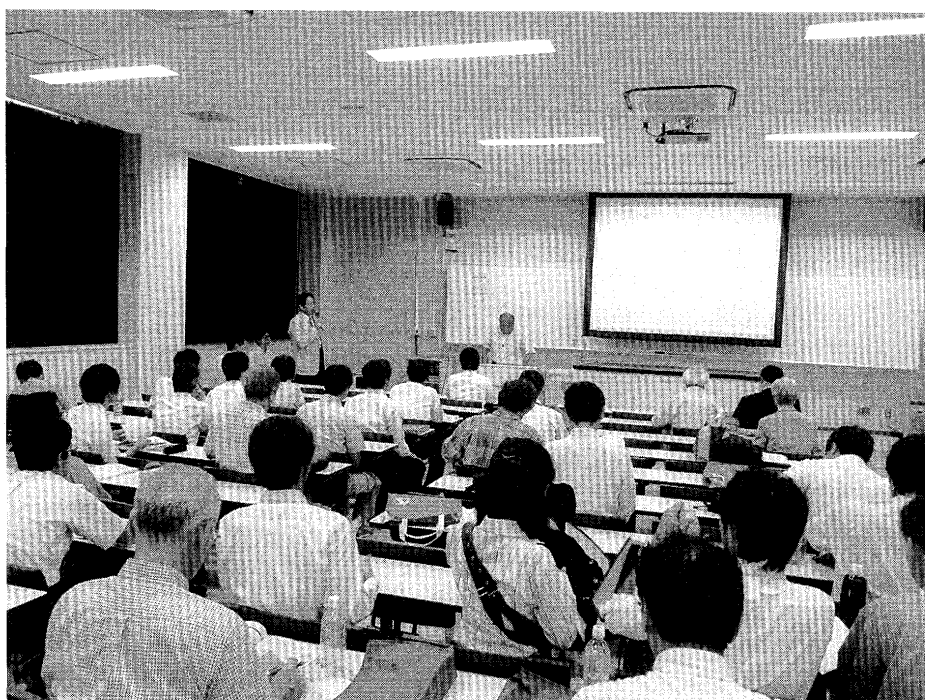
博物館館長の大木公彦氏による講演が行われました。講演では、地質学的に見た鹿児島の特質や粘土を含めた様々な地質資源の開発や利用について鹿児島の文化的な歴史を含めて非常にわかりやすく話していただきました。

シンポジウムでは「土壌における資源・素材」というテーマで、土壌から見た資源開発及び環境浄化・環境修復について5名の先生方に講演いただき、その後活発な総合討論がなされました。講演者と講演題目は以下のとおりです。「レアアース資源開発の現状と課題」：高木哲一氏(産総研)、「風化花崗岩における希土類の吸着と資源としての重要性」：実松健造氏(産総研)、「メチル水銀による環境汚染と疫学－鹿児島湾を対象として－」：安藤哲夫氏(鹿児島大・医歯学)、「地下水・土壌汚染における土壌・鉱物・粘土の扱い」：伊藤健一会員(宮崎大・国際連携センター)、「無機イオン交換体を用いた環境浄化材料の開発」：渡辺雄二郎会員(金沢工大・生活環境研究所)。なお、特別講演とシンポジウム講演をいただいた先生方には日本粘土学会から記念のプレートが贈呈されました。

シンポジウムの後、会場近くのジェイドガーデンパレ



特別講演（大木公彦先生）



シンポジウム講演の風景

スに移動して懇親会が催されました。参加者数は134名（内、学生34名）で、討論会参加者の7割以上の方々が懇親会にもご参加いただいたこととなります。懇親会では、金子芳郎会員（鹿児島大）の司会進行により、まず実行委員会委員長の河野元治（鹿児島大）から参加者の皆様への歓迎の挨拶を行い、日本粘土学会会長の井上厚行会員（千葉大）のご挨拶、鹿児島大学研究担当理事の前田芳實氏から開催地の鹿児島大学を代表してのご挨拶、そして元会長の山岸皓彦会員（東邦大）による乾杯のご挨拶へと続きました。乾杯の後には料理や焼酎を片手に楽しい歓談の時間が持たれました。なお、歓談の合間には、山田裕久会員（物材機構）と中戸晃之会員（東京農工大）による2日目に開催される提案型セッションの内容が紹介されました。また、常務委員長の前田珠郎会員（国際農林水産研）から次回の粘土科学討論会は韓国で開催されること、そして国際協力委員の佐藤 努会員（北海道大）から韓国での具体的な開催方法などについての説明がなされました。最後に開催地在住の元会長の富田克利会員（鹿児島大）によるご挨拶、そして元会長の坂本尚史会員（千葉科学大）による一本締めで盛況のうちに閉会しました。

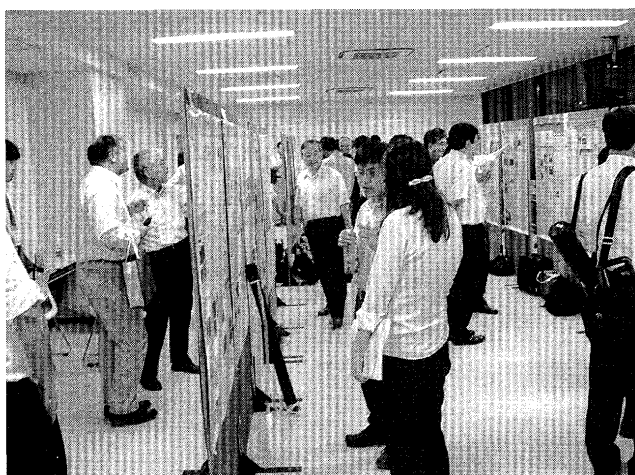
討論会2日目は、9時からの口頭発表で始まり、11時から総会、午後はポスター発表、その後口頭発表が行われました。午前の口頭発表では笠間丈史会員（デンマーク工科大）と大矢仁史氏（北九州市立大）による招待講演が行われ、最新の研究成果が報告されるとともに活発な討論が行われました。総会では、まず逝去会員への黙祷が捧げられました。その後、橋爪秀夫会員（物材機構）を議長として、井上会長の挨拶、報告事項、審議事項と続



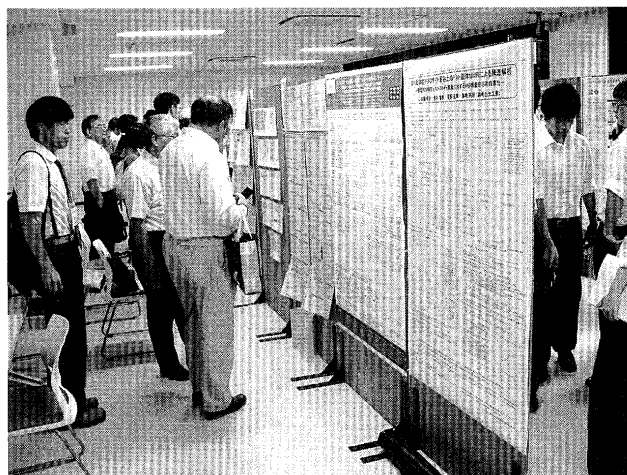
懇親会の風景

き、最後に学会賞等の表彰がなされました。受賞者は以下のとおりです。学会賞：山田裕久会員、奨励賞：伊藤弘志会員、林 亜紀会員、技術賞：後内貴胤会員、論文賞（粘土科学）：山川洋亮氏、逸見彰男会員、松枝直人会員、ザエナル・アビディン会員、清木祥平氏、岩田数典氏、池田博史氏、論文賞（Clay Science）：A. Inoue 会員、学術振興基金賞：西岡幸泰会員、菅 大輔会員、藤村卓也会員。

午後は2会場でのポスター発表が行われました。今回の討論会は過去最高の発表件数となり、ポスター会場では66件の発表が行われました。両会場ともに多数の方々に参加いただいて活発な質疑が行われました。ポスター発表に引き続き、口頭発表が行われました。この時間の口頭発表では後半部分に提案型セッションが設けられま



ポスター発表の風景 (1)



ポスター発表の風景 (2)

した。提案型セッションの題目は、A会場：「天然鉱物等の無機材料を利用して放射性物質を除去・回収できるのだろうか?」、B会場：「粘土鉱物を利用する光機能系の最近の展開」です。そのため、前半部分では、これらのテーマに関連する発表を集めて、全体を一つのセッションとして討論できるようにプログラム編成の配慮がなされました。なお、提案型セッションでは招待講演として長縄弘親氏(原子力機構)と秦 英夫氏(資生堂・リサーチセンター)による最新の研究成果の発表も行われ、発表後の討論も終了時間を大幅に延長するほどの活発な質疑がなされました。

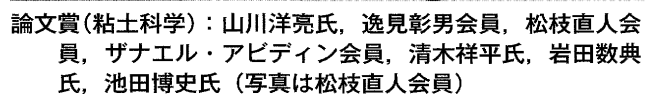
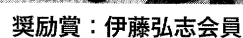
討論会3日目は、菱刈鉱山の見学会が開催されました。参加者は22名で定員一杯の方々にご参加いただきました。この見学会では、坑道内への入坑に使用する専用車両の定員の関係で参加者数を申込先着22名に制限させていただきました。そのため、受付開始後数日で定員に達し、その後申込された多くの方々をお断りせざるをえませんでした。参加をお断りさせていただきました皆様方には改めてお詫び申し上げます。見学会では、参加者22名は8時過ぎに鹿児島中央駅を出発し、9時半頃に小雨が降る中菱刈鉱山に到着しました。菱刈鉱山到着後、

全員作業服に着替え、ヘルメット、ゴーグル、防塵マスク等の安全具を装着して2班に分かれて坑道内に入りました。専用車両で10分程度坑道を進み、現在採掘中の切羽を見学させていただきました。菱刈鉱山は、年間金産出量が約7.5トンで鉱石中の金含有量が世界の主要鉱山平均の10倍を超えるきわめて高品位鉱床として世界的に知られています。坑道内の切羽では、安山岩の母岩中に貫入した幅数cmから10cmを超える高金含有石英脈をじっくりと観察することができました。菱刈鉱山の皆様には大変お世話になりましたこと、厚く御礼申し上げます。菱刈鉱山見学後、霧島火山西麓のそうめん流しで昼食を取りました。回転水流式のそうめん流しは鹿児島が発祥の地と言われていて地元ではきわめて普通ですが、多くの参加者の方々が初めてのご様子で、大変楽しんでいただけたものと思います。食事中も台風15号の影響で雨脚が激しくなる一方でしたので、午後の霧島火山の見学は取り止めにして、昼食後、鹿児島空港および鹿児島中央駅に参加者をお送りして解散となりました。

今回の討論会には東日本大震災で多大な被害を受けられた方々も含めて、全国からたくさんの方々にご参加いただきました。お蔭様で発表件数および参加者数ともに過去最多となり、きわめて有意義な討論会を開催することができました。今回の討論会にご参加いただきました皆様方に改めて御礼申し上げます。討論会の準備および開催に当たっては事務局の土信田裕子氏、常務委員長および常務委員会の各担当者の皆様には大変お世話になりました。座長を担当いただいた先生方には討論会を順調に進めていただき感謝申し上げます。鹿児島大学の学生の皆様には討論会の会場設営や会場での様々な運営業務にご協力いただきました。最後に、討論会開催に当たり多くの関係企業の皆様方からご援助をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。



菱刈鉱山坑道内での参加者一同





学術振興基金賞：西岡幸泰会員



学術振興基金賞：菅 大輔会員 (写真は代理の會澤純雄会員)



学術振興基金賞：藤村卓也会員